

— II —

都市づくりの課題



Fukushima City

### 1. 都市づくりの課題

市町村合併により形成された本市は、広大な市域面積と分散した市街地形態を有しており、豊かな自然とともに多様な地域特性を持っています。

また約29万人の市民の生活の舞台となる都市としてばかりでなく、福島県の県都であるとともに、南東北の中核都市としても位置づけられています。

このような多面的な都市の特性とともに、近年の社会経済状況などの背景を踏まえた上で、今後の都市づくりの課題としては、以下の3点にまとめることができます。

#### 都市づくりの課題

##### ■都市づくりに関する課題

- ① 地震災害・原子力災害からの復興と減災のまちづくり
- ② 活力ある産業の育成
- ③ 安全で健康・快適な生活環境の形成
- ④ 人口減少と少子高齢化に対応したまちづくり
- ⑤ 環境との共生
- ⑥ 国際化・広域化への対応
- ⑦ 周辺市町村等との連携
- ⑧ 市民参加に基づくまちづくりの展開
- ⑨ 効率的な都市運営

##### ■土地利用に関する課題

- ① 市街地の無秩序な拡大の防止
- ② 中心市街地の整備
- ③ 都市的土地利用と農村的土地利用の調和
- ④ 分散する市街地を連携するネットワークの形成

##### ■都市の魅力づくりに関する課題

- ① 歴史・文化を生かした個性づくり
- ② 豊かな自然や観光資源等の活用
- ③ 魅力ある都市機能の整備・充実
- ④ 多様な地域特性の活用

## (1) 都市づくりに関する課題

### ① 地震災害・原子力災害からの復興と減災のまちづくり

東日本大震災及び原子力災害からの復旧・復興・再生と安全・安心の確保が重要であり、放射能対策や地震災害からの復興、広域避難者への支援などが必要です。

希望ある復興を目指し、福島復興を力強く先導するための地域活性化が求められています。

また、風水害・震災・噴火などの自然災害に対する予防対策や防災拠点機能の強化、避難所・都市基盤などの耐震化を進めるとともに、地域防災・避難体制の強化を図り、災害被害を最小限にとどめる減災まちづくりを進めていくことが必要です。

### ② 活力ある産業の育成

定住促進や都市力を高めていくためには、雇用の確保・創出と産業振興は重要であることから、中心部などの商業活性化や起業家の支援、各地域の資源を生かした観光交流振興と連携した商工農の活性化、企業誘致とその受け皿づくりを進めていく必要があります。

### ③ 安全で健康・快適な生活環境の形成

増加する高齢者や障がい者も含めたすべての市民が安全で安心・快適な日常生活を営む事ができる都市づくりが必要であり、ユニバーサルデザインの視点に立った公共空間等のバリアフリー化の推進や、交通事故や犯罪などの起きにくい安全な生活環境の形成を図っていく必要があります。

また、水環境の保全や悪臭対策などの環境整備やまちなかの緑化・景観整備等とともに、徒歩や自転車での出かけ、身近に健康づくりができるような環境整備も必要です。

### ④ 人口減少と少子高齢化に対応したまちづくり

人口減少社会へ移行し、少子高齢化が進行する中であって、都市の活力を維持・増進していくためには、定住促進・空き家対策や、観光・交流人口の拡大を図っていく必要があります。

また、医療・福祉の充実、子育て支援対策、生きがい対策、多世代交流促進、居住環境整備、公共交通サービスの充実など、子供から高齢者まで生き生きと暮らせるまちづくりを行っていく必要があります。

さらに、高齢化社会に対応するため、自家用車に依存しない、歩いて暮らせるまちづくりに向けた環境整備などが求められています。

### ⑤ 環境との共生

地球温暖化問題に対応するため、住宅の環境性能の向上のみならず、市街地の拡散抑制、公共交通を活用した集約的な都市構造への誘導、エネルギー利用の効率化や再生可能エネルギーの活用を図ること、緑地の保全と都市の緑化推進など「低炭素都市づくり」が求められています。

本市の都市づくりにおいても、豊かな自然環境の保全や活用を積極的に位置づけていくことや、環境への負荷が小さい効率的で機能的な都市づくりを行うことにより、環境との共生を図る事が必要です。

## II 都市づくりの課題

### ⑥ 国際化・広域化への対応

我が国の急激な国際化に伴い、地方都市でも多くの外国人が居住・活動する時代を迎えており、人・モノ・情報の流れは、地球的規模に拡大されています。

このため高規格幹線道路や鉄道などによる主要な港湾・空港へのアクセスなど国際的・広域的なネットワークの形成にも対応した都市機能や都市基盤の整備が求められています。

東日本大震災や放射能災害からの復興を目指す役割も含めて、産業・観光・学術など様々な面で国際的な情報発信や交流を推し進め、広域的な役割やまちの活性化につなげていくことが必要です。

また、東北中央自動車道の開通など広域的な交通環境の強化を生かし、広域的な連携による観光振興や企業立地促進及び物流の効率化や地域活性化などにつなげていくことが必要です。

### ⑦ 周辺市町村等との連携

本市は県都として福島県の政治・文化などの中心としてのみならず、周辺市町村を含む都市圏である県北都市計画区域の中心都市としても位置づけられることから、行政・商業・業務・学術・文化機能などの集積を生かし、広域圏の活性化を牽引していくような都市機能の充実を図っていくことが求められています。

また、幹線道路や鉄道などのネットワークの形成により周辺市町村との連携・交流を促進する都市機能や都市基盤の整備が求められています。

### ⑧ 市民参加に基づくまちづくりの展開

都市はそこに住む市民が主人公であり、市民の主体的な参加を得て、市民と行政の「協働のまちづくり」を進めていくことが重要です。

本市においても、各種計画策定における委員会、懇談会、説明会などへの市民の参加や、町内会や自治振興協議会などで、まちづくりの提案が出されるようになってきています。

また、ボランティア・市民活動団体、NPOなどの組織が誕生し、まちづくりの担い手が成長しています。

今後も、市民と行政が都市づくりの目標や将来像を共有するとともに、市民自らが主体的に都市づくりを促進していく必要があります。

### ⑨ 効率的な都市運営

人口減少社会における厳しい行財政状況の中であって、公共施設・都市基盤などの効率的な維持管理や長寿命化、既存ストックの有効活用、企業やNPOなど民間のノウハウを生かした制度を活用するなど、効率的・効果的な持続可能な都市運営を図っていく必要があります。

また、都市機能の基本である都市基盤整備については、本市は市街地特性により他の東北6県の県庁所在都市等と比較して低い状況にあるため、より効率的な整備が必要となっています。

## (2) 土地利用に関する課題

### ① 市街地の無秩序な拡大の防止

人口減少社会へ移行し、少子高齢化が進行する中において、まち全体の活力を維持・増進していくためには、都市機能の拡散を抑制し、コンパクトで周辺環境と調和した都市の形成が求められています。

本市の既成市街地の周辺部では、未利用地を残したままスプロール的な市街地の拡大が進んでいます。

このため、基盤整備の遅れや非効率化、さらに自然環境への影響も危惧されることから、無秩序な市街地の拡大を防止していく必要があります。

### ② 中心市街地の整備

福島駅周辺の中心市街地は、本市のみならず県の行政・文化の中心として、多様な機能集積が進み発展してきた一方で、郊外型商業施設の展開などにより、人口や産業の空洞化が進み、活力が失われてきていましたが、中心市街地活性化基本計画に基づく取組みにより活力の再生が図られつつあります。

しかし、福島駅のポテンシャルを生かした集客や東西連携の強化、中心市街地全体への集客拡大が不十分であるため、中心市街地の商業環境や魅力ある都市機能の充実、回遊・滞留環境の整備などにより、交流人口の拡大や居住促進が求められています。

今後も本市の顔として魅力あるまちづくりを目指し、県都にふさわしい風格と賑わいのある中心市街地の創出に努める必要があります。

### ③ 都市的土地利用と農村的土地利用の調和

本市の郊外部に広がる豊かな農業環境や自然環境・里地里山は、本市を特徴づける貴重な財産であり、今後とも保全するため、都市的土地利用と農村的土地利用の調和を図り、市街化調整区域や都市計画区域外において無秩序な開発行為が行われないよう適正な規制・誘導が必要です。

また、農村地域では、後継者不足による耕作放棄地の増加など既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されており、農業振興と連携を図り、各地域の拠点となる地区の魅力向上や集落環境の充実などを進めていく必要があります。

### ④ 分散する市街地を連携するネットワークの形成

本市の市街地は、合併による市域拡大や郊外の大規模住宅団地が造成されるなど不整形な飛び市街地が形成され、都市基盤整備や土地利用誘導を行うにあたり、非効率なものとなっています。

また、市街地間の連携も希薄であるため、社会資本の投資効率も低い状態となっています。

このため、今後は不必要な市街地の拡大・拡散を抑制するとともに、交通、サービス、情報通信技術の活用などにより各市街地を結ぶネットワークの形成を図り、各地域の均衡ある発展のもとでの効率的な市街地整備を目指す必要があります。

### (3) 都市の魅力づくりに関する課題

#### ① 歴史・文化を生かした個性づくり

地域の風土や生活の中で育まれてきた伝統文化や歴史的資源は、まち固有の資産であり、まちや地域への愛着・誇りにつながる重要な資源であるため、文化財や歴史的資産の保存を図るとともに、地域学習や交流の場としての活用や、個性的な都市づくりに生かしていくことが必要です。

#### ② 豊かな自然や観光資源等の活用

本市には吾妻連峰・阿武隈山系の山々や、阿武隈川・荒川などの豊かな自然環境とともに、盆地に広がる広大な田園地域が残されています。

また、米、野菜に加え全国的に名高いくだもの主産地であり、郊外に広がる田園風景や多種多様な花々が咲き誇る果樹地帯、「福島に桃源郷あり」と称された花見山は、東北を代表する飯坂温泉、土湯温泉、高湯温泉などともに貴重な景観・観光資源となっています。

今後においてもこれらの自然・観光・景観などの資源について、良好な資源の適切な保全と積極的な活用を行い、互いの連携を図りながら地域特性を生かした魅力づくりを行う必要があります。

#### ③ 魅力ある都市機能の整備・充実

本市の中心市街地には、商業・業務・学術・研究・行政・文化・交流などの様々な都市機能の集積があり、県都及び市の中心拠点として、広域的な役割を果たし、かつ市民に高度な利便性や活力を提供していくためには、更なる魅力ある都市機能の整備・充実が必要です。

#### ④ 多様な地域特性の活用

本市は、もともとは歴史・風土などの独自の特性を持った地区の合併により形成された経緯があり、今でもそれぞれの地域特性を残しています。

これらの特性をまちづくりに積極的に活用し地域の魅力を高め、地域への愛着と誇りを育むとともに、このような各地域の魅力を連携・強化することにより、個性的で魅力的な都市づくりを進め観光交流人口の拡大を図ることが必要です。